

注 意 報

農技セ第6511号
平成29年7月6日

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成29年度農作物病虫害発生予察情報について

平成29年度農作物病虫害発生予察注意報第3号を公表したので送付します。

平成29年度病虫害発生予察注意報第3号

平成29年7月6日
徳 島 県

6月第4半旬～第6半旬のフェロモントラップ定点調査において、オオタバコガの誘殺数が平年に比べて高く推移していることから、今後、野菜類で幼虫による被害の拡大が予想されますので、注意報を発令します。

現地においては発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

作物名：野菜類(特に夏秋ナス、オクラ)
病虫害名：オオタバコガ

- 1.発生地域 県内全域
- 2.発生時期 7月上旬～
- 3.発生程度 多(前年よりやや多く、平年より多い)

4.注意報発令の根拠

- (1)フェロモントラップの定点(7地点)調査において、6月第5半旬より誘殺数が増加し、第6半旬には平均で56頭(2～95頭)誘殺され、平年の約1.9倍の発生である。
本年の発生量、発生消長は、多発生となった2014年と似ており、今後、7月上旬及び8月上旬頃に幼虫の発生ピークが来ると見込まれる(図1)。
- (2)6月26日～28日に実施した夏秋ナス現地9圃場における巡回調査では、4圃場で産下卵が確認され(圃場率44.4%)、100葉当たり平均卵数が0.9卵であった(平年は55.6%、1.3卵)。また、一部の圃場では幼虫の発生や幼虫による被害果も確認された(図2、3)。
- (3)高松地方气象台が6月29日に発表した1か月予報では、期間のはじめは気温がかなり高くなると見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

5.防除法等

- (1)被害部位(果実、花蕾)や剪定後の茎葉には卵や幼虫が付着している可能性があるため、圃場外に持ち出して適切に処分する。
- (2)果実や茎、花蕾に食入した幼虫や発育が進んだ幼虫に対しては薬効が著しく低下するので、若齢幼虫主体の時期に薬剤防除を行う。
- (3)本虫は作物の花蕾や生長点付近の新葉に1個ずつ産卵する。野外での卵期間は3日程度であり、7月1～2半旬及び8月1半旬頃には幼虫の発生ピークが来ると見込ま

れる。その後多い状態が続き、防除適期がつかみにくくなる場合もあるので、寄生部位を注意深く観察してから防除する。

(4) 防除薬剤は、現在、収穫期を迎えている夏秋ナスやオクラでは、アファーム乳剤やプレバソンフロアブル5等の散布が有効である(表1, 2)。更に、7月下旬頃より定植が始まるキャベツ、ブロッコリー等のアブラナ科野菜やレタスでは、プレバソンフロアブル5、ジュリボフロアブルとキックオフ顆粒水和剤のセル成型トレイへの灌注処理が有効である。

(5) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

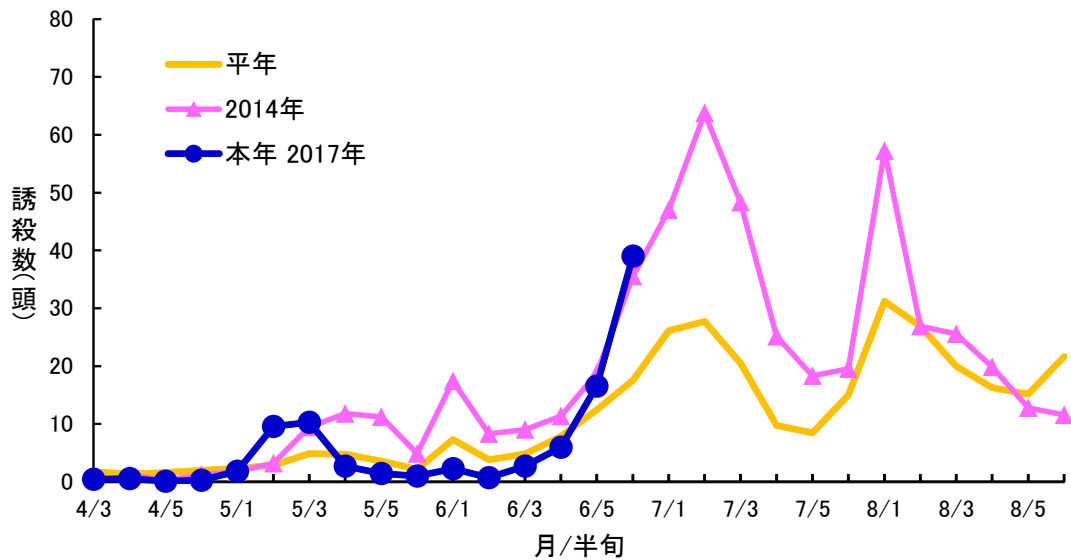


図1 オオタバコガ雄成虫誘殺数の推移

調査圃場：石井町, 阿波市(柿原, 香美, 下喜来, 中原), 三好市(勢力), 東みよし町(昼間)



図2 ナスの上位葉に産下された卵(黄色円内)



図3 オオタバコガ幼虫と食害痕

表1 ナスでオオタバコガに登録のある農薬(登録内容：2017年7月4日現在)

農薬の名称	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	IRAC コード
アフーム乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	6
マトリックフロアブル	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	18
プレバソフロアブル5	2000倍	収穫前日まで	2回以内	28
プレオフロアブル	1000倍	収穫前日まで	4回以内	未
フェニックス顆粒水和剤	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	28

表2 オクラでオオタバコガに登録のある農薬(登録内容：2017年7月4日現在)

農薬の名称	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	IRAC コード
石原アタブロン乳剤	2000倍	収穫前日まで	4回以内	15
コテツフロアブル	2000倍	収穫前日まで	2回以内	13
アフーム乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	6
プレオフロアブル	1000倍	収穫前日まで	2回以内	未
プレバソフロアブル5	2000倍	収穫前日まで	3回以内	28